

# 令和2年度 事業報告書

社会福祉法人 荒尾市社会福祉協議会

# 令和2年度荒尾市社会福祉協議会事業報告 目次

概況	1
----	---

## 基本目標1

基本目標1ー(1) 支え合いづくり

基本目標1ー(2) 交流・ふれあいの促進

(1) ささえあい活動推進地区	2
-----------------	---

①高齢者いきいきサロン

②買い物支援販売会

③日常生活支援

④見守り体制整備

⑤声かけ見守り訓練

⑥子ども、子育てサロン

⑦移送支援

⑧買い物ツアー

⑨男性向け集いの場

(2) ささえあい活動推進地区の活動支援	5
----------------------	---

(3) 歳末たすけあい事業	6
---------------	---

①地域活動特別助成

②年賀状送付事業助成

基本目標1ー(3) 心のバリアフリーの推進

(4) ワークキャンプの開催、学校における福祉教育の支援	7
------------------------------	---

①福祉体験学習の支援

②ゲストティーチャーの派遣

③ワークキャンプ事業

基本目標1ー(4) ボランティア活動の促進

(5) ボランティア養成講座の実施	8
-------------------	---

①手話点字朗読ボランティア養成講座

②地域書類作成支援ボランティア養成講座

(6) ボランティアコーディネート	9
-------------------	---

(7) ボランティア情報誌の発行	9
------------------	---

(8) ボランティア連絡協議会活動支援と事務局運営	9
---------------------------	---

(9) ボランティア活動保険窓口業務	10
--------------------	----

基本目標1ー(5) 共生社会の推進

(10) 生活支援ボランティア事業	10
-------------------	----

①生活支援ボランティア事業

②生活支援ボランティア養成講座

③生活支援ボランティアフォローアップ講座

(11) 地区協議会地域福祉部会の設置	11
---------------------	----

## 基本目標 2

### 基本目標2ー(1) きめ細やかな情報提供

- (1) 社協だよりの発行 . . . . . 12

### 基本目標2ー(2) 包括的な相談体制づくり

- (2) 共生社会の構築に向けた総合相談事業の検討 . . . . . 12
  - ①総合相談
  - ②生活困窮者緊急・一時支援事業
- (3) フードバンク事業 . . . . . 13
  - ①フードドライブ
  - ②フードバンク
- (4) 生活困窮者食事支援事業 . . . . . 14
- (5) 子ども食堂実施のための調査・検討 . . . . . 14
- (6) 生活福祉資金、生活資金 . . . . . 14
  - ①生活福祉資金
  - ②生活資金
- (7) 心配ごと相談事業 . . . . . 15

### 基本目標2ー(3) 地域ニーズに対応したサービスの充実

- (8) 介護予防・生活支援体制整備事業 . . . . . 15
  - ①地域資源、社会資源の立ち上げ
  - ②地域活動の支援
  - ③貯筋体操活動支援
  - ④地域資源、社会資源調査活動
  - ⑤担い手の育成
  - ⑥コーディネート、マッチング
  - ⑦各種会議への参加
  - ⑧周知・啓発・視察等の受入れ
- (9) 訪問美容サービス . . . . . 17

### 基本目標2ー(4) 適切なサービスの推進

- (10) 成年後見センター及び権利擁護推進センターの整備 . . . . . 18
  - ①法人後見事業
  - ②中核機関の受託
- (11) 地域福祉権利擁護事業 . . . . . 19

## 基本目標 3

### 基本目標3ー(1) 地域ぐるみでの健康づくりと介護予防

- (1) 地域介護予防支援事業 . . . . . 20
  - ①貯筋体操の指導
  - ②はつらつ貯筋教室の開催
  - ③地域介護予防継続啓発活動
  - ④貯筋体操交流会

(2) フレイル予防サポーターの養成	21
①フレイル予防サポーター養成講座	
②フレイル予防サポーターフォローアップ講座	
(3) フレイル予防教室(受託)	22

基本目標3ー(2) 子どもの健やかな成長

(4) 子ども食堂、コミュニティ食堂実施のための調査・検討(再掲)	22
-----------------------------------	----

## 基本目標 4

基本目標4ー(1) 緊急時・災害時の助け合いの仕組みづくり

(1) 防災ボランティアの養成	23
(2) 災害ボランティアセンター設置、研修、訓練	24
①災害ボランティアセンターの設置	
②災害ボランティアセンター設置訓練	
③災害ボランティアセンターへの職員派遣	

基本目標4ー(2) 地域ぐるみでの見守り・防犯活動

(3) 福祉委員の見守り活動	25
----------------	----

## 在宅生活支援サービス部門

### 【ヘルパーステーション】

(1) 訪問介護事業	27
(2) 訪問入浴事業	27
(3) 居宅介護支援事業	28
(4) 介護保険対象外ホームヘルプ事業	28
(5) 居宅介護・重度訪問介護・同行援護事業	29
(6) 地域生活支援事業	29

### 【交流拠点あおば】

(1) 交流拠点あおば	30
(2) デイサービス事業	30
(3) 認知症カフェ	31
(4) 通所型Cサービス	31
(5) 学童保育	32

### 【ふれあい福祉センター】

(1) ふれあい福祉センター管理運営事業	33
(2) 食の自立支援事業	33
(3) 生活介護事業	34
(4) 地域活動支援センター	36
(5) 児童発達支援・放課後等デイサービス	37
(6) 相談支援事業	39



## 【法人運営】

(1) 理事会開催状況	41
(2) 評議員会開催状況	41
(3) 監査開催状況	41
(4) 会費制度	42
(5) 香典返し及び一般寄付	42
(6) 広報活動	42
(7) 苦情・事故等	42
(8) 赤い羽根共同募金・歳末たすけあい募金事務	43
(9) 日本赤十字社熊本県支部荒尾市地区事務	44
(10) 災害見舞金事業	44
(11) 法外援護事業	44
(12) 実習生受入れ	45
(13) 職場体験事業	45
(14) 市民病院内売店事業	45

## 【荒尾市潮湯】

1. 荒尾市潮湯管理運営	46
--------------	----

## 【荒尾市総合福祉センター】

1. 荒尾市総合福祉センター管理運営	46
--------------------	----

令和2年度 事業報告

【概況】

この1年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、サロン等のささえあい活動や地域の貯筋体操が実施できない期間があったため、実施回数が大幅に減少し、地域活動が停滞する事態となりました。一方、ささえあい活動のメニューに新しく追加した男性向け集いの場はニーズにマッチしたものと思われ、初年度から10ヶ所で取り組みを開始されています。

介護保険サービスや障害福祉サービスでは、新型コロナ感染症の感染を恐れて利用を控える利用者や家族がおられたため、障がい児通所支援事業や生活介護事業の利用者が減少し、また、潮湯の利用やふれあい福祉センターの会場利用も減少しました。

収益事業として本会の経営を永く支えてきた市民病院の売店事業は病院自体の面会制限などにより来客数が大幅に減少し、売店の売り上げが大きく落ち込み赤字となり、事業を継続することが困難となったため、3月をもって事業を廃止いたしました。平成17年度から地域交流拠点あおばで実施してきた老人デイサービスは、慢性的に低い利用率で赤字が続き、改善の兆しが見えなかったため、3月をもって事業廃止いたしました。

一方で、新型コロナ感染症の拡大に伴い緊急小口資金、総合支援資金の貸し付け申請が急増したため、その受け付けに対応しました。

また、7月に発生しました豪雨では、荒尾市でも井手川地区等を中心に床上・床下浸水の被害があったため、同月災害ボランティアセンターを立ち上げ、多くのボランティアに参加していただき、被災した世帯の汚泥の除去、使えなくなった家電や家具等の運搬をお手伝いすることで被災した世帯の復旧支援を行いました。

このような緊急小口資金等の貸し付け相談や被災した世帯の生活再建を支援する中で、食料がない方、生活資金が確保できない方など生活困窮世帯が顕在化したため、本年度から取り組み始めた総合相談事業により、本会の既存サービスや関係機関との連携を図りながら要支援者に寄り添った支援を実施いたしました。

その他の事業では、成年後見センターが本格的に稼働し、併せて荒尾市から中核機関の委託を受けたことで、成年後見制度の普及啓発、申し立ての支援、市民後見人の養成講座を実施しました。

本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によって生活が困窮した世帯への生活困窮者緊急・一時支援事業や災害ボランティアセンターの運営を行いました。その財源として国・県、あるいは共同募金会等の補助金等を受けることができたことも一つの要因として、法人全体で最終的に黒字決算になることができました。

社会情勢の変化や災害発生時において、支援を必要とする対象者や支援の質が変わりますが、そのような状況においても要援護者を適切に支援できるよう職員の資質向上、職員の体制整備を進め、住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを目指して、今後も地域福祉を推進してまいります。

以下、各事業の実施状況について報告いたします。

## 基本目標 1

支え合いとふれあいのある「あらお」にしよう！

基本目標 1 の推進に当たっては、新型コロナウイルスの感染拡大防止を図る観点から熊本県のリスクレベルをもとにささえあい活動推進地区事業と、ボランティア活動を自粛したことから、それぞれの活動が停滞した。

【基本目標 1 – (1) 支え合いづくり及び (2) 交流・ふれあいの促進】

### 1. 地域福祉事業

#### (1) ささえあい活動推進地区事業

本年度も地域住民が地域の課題に関心を持ち、自ら考えるとともに自らが主体となって地域の課題解決に取り組んでもらう「ささえあい活動推進地区事業」を推進した。9つのメニューを用意し地域の実情に応じた取り組みを進めてもらった。本年度は「男性向け集いの場」というメニューを追加して、より取り組みやすい環境の整備に努めた。

##### ① 高齢者いきいきサロン事業【地域福祉活動計画評価指標：目標 65 地区】

地域では交流の場としてサロンに取り組まれている。本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、熊本県で感染が拡大する度にサロン開催の自粛を要請したことから、参加者数は大幅に減少した。また、このような状況によりサロン開催時における会食の自粛をお願いしたことから、地域から「会食がないとサロンを開催できない」という意見が寄せられ、多くのサロンが実施しない状態が続いた。

本年度末での設置数については新たに 1 カ所で設置されたものの、廃止が 1 カ所、休止が 1 カ所となったことから全体では 1 カ所の減となった。廃止等の要因としては役員のなり手不足と高齢化があげられる。また、今後は新型コロナウイルスの感染対策をしながら地域活動を実施してもらうことが必要となるため、6月に「ささえあい活動・貯筋体操合同感染予防講習会」を実施した。

サロン開設状況（単位：箇所・日・人）

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
実施箇所数	48	52	57	62	61
開設延日数	642	705	778	785	253
参加人員	13,373	14,413	15,315	14,645	3,256

ささえあい活動・貯筋体操合同感染予防講習会

期 日	内 容	参加者
令和 2 年 6 月 18 日	感染症予防対策と熱中症予防対策、新型コロナウイルス流行時におけるサロンの開催について	41 人
令和 2 年 6 月 24 日		33 人
令和 2 年 6 月 30 日		32 人

## ② 買い物支援販売会

商業施設が近隣にない、移手段がないなどの理由で買い物ができない高齢者に、地域住民が公民館で日用品などを備蓄して定期的に販売会を開催している。本年度は新たに2カ所に設置された。洗剤やトイレトーパーなど重いものやかさばったりするものを公民館で購入できる利点から実施箇所が毎年増加している。本年度は新型コロナウイルスの感染拡大により開催の自粛を依頼したことから、参加人員が前年度から大幅に減少した。

買い物支援実施状況（単位：箇所・回・人）

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
実施箇所数	7	12	18	22	24
開設延回数	97	176	297	408	96
購入者数	870	1,417	2,346	2,742	421
支援者数	302	408	713	1,203	165

## ③日常生活支援 【基本目標1－(5)共生社会の推進】に位置づけ

草刈りや庭木の剪定、買物、ゴミ出し、病院への送迎など、地域の高齢者の日常生活の困りごとを地域住民が解決している。本年度は2ヶ所増の9ヶ所で取り組みが行われたが、新型コロナウイルスの影響によりささえあい活動の自粛を要請したことから、実施回数が減少した。

また、本事業におけるゴミ出しについては高齢者の日常生活を維持するのに欠かせないことから新型コロナウイルス感染対策で多くの事業が延期、中止される中であっても、活動の継続をお願いした。

日常生活支援実施状況（単位：箇所・回）

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
実施箇所数	3	5	6	7	9
実施回数	142	91	157	243	189

支援内容別実施状況（単位：回）

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
草刈り、剪定	20	27	43	36	26
家屋修繕	3	3	2	4	1
買物	25	10	24	84	34
ゴミ出し	26	44	74	91	122
照明器具交換	5	0	3	5	4
その他	63	7	11	23	2
合計	142	91	157	243	189

#### ④地域住民による見守り体制の整備

高齢者を見守る組織を区で整備してもらい、対象者の近隣住民に見守り協力者となってもらい独居高齢者等へ「見守り」を行っている。緊急時に区長や民生・児童委員、福祉委員などに連絡をする仕組みを構築してもらう。本年度、新たに5ヶ所が取り組みを開始した。

見守り活動実施状況（単位：箇所・回）

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
実施箇所数	12	19	27	29	34
延活動回数	19,404	29,713	42,062	52,843	68,991

活動分類実施状況（単位：回）

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
見守り	17,166	27,500	38,391	49,019	64,939
訪問	2,068	2,107	3,551	3,732	3,954
緊急通報	21	13	24	8	18
相談	149	93	96	84	80
合計	19,404	29,713	42,062	52,843	68,991

#### ⑤声かけ見守り訓練【基本目標1－（5）共生社会の推進】に位置づけ

本年度は新型コロナウイルス感染拡大が影響し実施する区はなかった。

#### ⑥子ども、子育てサロン【基本目標3－（2）子どもの健やかな成長】に位置づけ

地域の子どもの居場所づくりや世代間交流、子育ての悩みを相談できる保護者の交流の場を地域住民が主体となって運営している。子ども食堂、子どもの居場所、学習支援など多岐にわたる形態で活動が実施されている。

本年度の設置数は新規1ヶ所、廃止1ヶ所となった。また、新型コロナ感染拡大防止のため自粛を要請したことから実施回数が減少した。

子ども、子育てサロン実施状況（単位：箇所・回）

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
実施箇所数	2	3	7	8	8
実施回数	9	18	30	39	13

#### ⑦移送支援

令和元年度までは本会所有の乗用車を無償で貸与する事業であったが、本年度から移動手段を持たない高齢者を住民相互の活動により移送を行う事業に変更した。4ヶ所で開始となり、病院や公共施設などへの移送支援が29回実施された。

移送支援の利用状況

	H30年度	R元年度		R2年度
車両貸出件数	2	5	実施箇所数	4ヶ所
用途	サロン送迎	サロン送迎	実施回数	29回

## ⑧買い物ツアー

本会所有の車両を無償で貸し出して、近隣に商業施設がない、または移動手段がないなどの理由で買い物ができない高齢者を地域のボランティアが運転して商業施設まで連れて行っている。高齢者の買物支援としての機能のほか、外出の機会としての側面もある。本年度は新たに4カ所での取り組みが開始された。

本年度は新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、ささえあい活動の自粛を要請したことから参加者数が大幅に減少した。

買い物ツアー実施状況（単位：箇所・回・人）

	H30年度	R元年度	R2年度
実施箇所数	5	8	12
実施回数	51	69	19
参加人員	268	310	94

## ⑨男性向け集いの場

高齢者いきいきサロンに参加する男性が少ないことから、男性の地域活動への参加と孤立を防ぐために本年度からメニューに加えた男性向けのサロン。卓球や囲碁、将棋、麻雀など多様な活動が公民館で行われている。「男性向け」としながらも女性も参加可能としていることから、男女問わず多くの方が参加されている。初年度には10ヶ所で取り組みが開始された他、取り組みを検討している区からの問い合わせが多いことからこの事業のニーズの高さがうかがえる。

男性向け集いの場実施状況（単位：箇所・回・人）

	R2年度
実施箇所数	10
実施回数	144
参加人員	985

## (2) ささえあい活動推進地区の活動支援

### ① ささえあい活動に取り組む地域への支援

ささえあい活動を始める区や既実施区に立ち上げや運営に対する支援を行った。

#### ○ ささえあい活動立ち上げ説明会

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
実施回数	147	58	58	29	11

▽ ささえあい活動説明会の様子





### ○ささえあい活動交流会の開催

ささえあい活動を実践する者同士が一堂に会し、交流や情報の交換を目的にささえあい活動交流会を毎年開催している。新型コロナウイルス感染症の影響が長期化したことにより、ささえあい活動を実施する区に不安と戸惑いが見られたことから、本年度は「コロナ禍における地域の交流」をテーマに交流会を開催し、全国各地の先進事例を紹介するなどして各区でコロナ禍における地域交流の工夫を促した。

### ○ささえあい活動交流会の開催状況

期 日	内 容	参加者
令和3年3月24日 午前	先進事例紹介、交流	14人
3月24日 午後	先進事例紹介、交流	15人
3月25日 午前	先進事例紹介、交流	16人
3月25日 午後	先進事例紹介、交流	13人

▷ささえあい活動  
交流会の様子



### ②地域活動支援等備品の貸出事業

サロンや地域の行事等で使用する遊具、備品、車いすの無料や低額での貸し出しや、印刷機を地域やボランティア団体に無料又は低額で利用してもらっているが、新型コロナウイルスの影響により貸し出し実績や利用実績が減少した。

### (3) 歳末たすけあい事業

本年度も赤い羽根共同募金を財源に歳末たすけあい事業として地域活動助成事業と年賀状送付事業の2つの事業を実施した。公民館に多くの住民が集まると感染リスクが増大することから、地域活動助成事業については買物支援の取り組みへの変更を提案したが、変更に応じられるところはなかった。本年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により事業を申請する団体が減少した。

#### ①地域活動助成事業（単位：箇所）

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
実施箇所数	31	31	33	37	18

#### ②年賀状送付事業（単位：箇所・枚）

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
実施箇所数	16	18	19	19	19
給付枚数	278	344	363	358	366

## 2. ボランティアセンター事業

### 【基本目標1ー(3) こころのバリアフリーの推進】

#### (4) ワークキャンプの開催・学校における福祉教育の支援

##### ①福祉体験学習の支援

市内中学校にて車いす体験や高齢者疑似体験などの福祉体験学習を実施した。共に支え合う気持ちを持てるよう、学習内容に個人ワークやグループワークを取り入れ、生徒に考える時間を作るなどの工夫を行った。

新型コロナウイルスの影響により、学校側からの依頼が昨年度の5件から本年度1件に減少した。

##### 福祉体験学習の実施状況

期 日	学 校 名	内 容	参加者
令和2年11月19日	第四中学校	車いす体験	28人

▷福祉体験学習の様子



##### ②ゲストティーチャーの派遣

新型コロナウイルスの影響により学校からの依頼がなく、ゲストティーチャー側も感染拡大の影響で活動を自粛した。

H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2元年度
5校 (うち市内1校)	4校 (うち市内0校)	3校 (八幡小他2校)	6校 (うち市内1校)	0

##### ③ワークキャンプ事業

新型コロナウイルスの影響により、事業を中止した。



## 【基本目標 1 - (4) ボランティア活動の促進】

### (5) ボランティア養成講座の実施

#### ①手話・点字・朗読ボランティア養成講座

本年度は新型コロナウイルスの影響により点字・朗読養成講座については開講できない状況が続き、最終的には中止とした。手話講座（中級・上級）については手話奉仕員養成講座の修了者を対象にしたフォローアップ講座（中級・上級）と位置付け、1年を通して開催していることから、感染状況により開催と中止を繰り返すことになった。

また、手話（中級・上級）の講座については受講者の高齢化が進んでいることや初級講座終了後にフォローアップ講座を案内しているものの受講が進んでいないため受講者数の減少が続いている。

#### 養成講座開設状況（単位：日・人）

	H30年度			R元年度			R2年度		
	日数	受講者数	修了者	日数	受講者数	修了者	日数	受講者数	修了者
手話（上級）	42	7	—	34	8	—	20	6	—
手話（中級）	42	14	—	34	13	—	20	5	—
点字	29	3	3	30	2	2	—	—	—
朗読	12	5	5	13	5	4	—	—	—

※手話講座は新型コロナ感染拡大の影響等の理由で12回休講した。

#### ②地域書類作成支援ボランティア（事務お助け隊）養成講座

地域活動を行う団体役員の高齢化により補助金申請等の書類作成が難しくなり、活動の継続が困難になる事例が増加しているため、本年度から地域活動の書類作成を支援するボランティアの養成事業を実施した。

新型コロナウイルスの感染拡大を懸念して定員を制限して開催したところ、9名が受講し、そのうち7名がボランティアとして登録された。養成講座受講者から高齢者の接し方やパソコンの活用についてもう少しフォローアップしてほしいと要望があったためフォローアップ講座を追加して開催することにした。令和3年2月10日に実施することにしたが、新型コロナウイルスの感染が再拡大したことにより中止した。

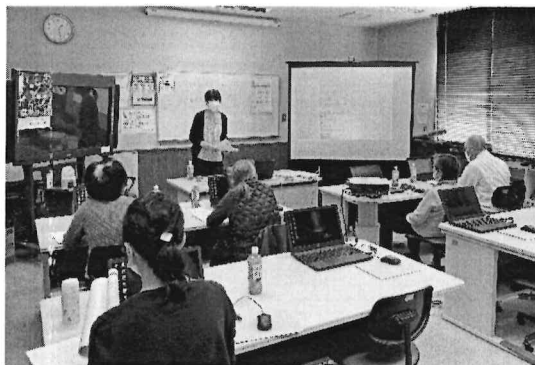
#### ○地域書類作成支援ボランティア養成講座

期 日	内 容	受講者数	登録者数
令和2年11月25日	①Word 講座	9人	7人
11月26日	①LINE でできること ②ささえあい活動について ③ボランティア交流会		
11月27日	①Excel 講座		

#### ○地域書類作成支援ボランティアフォローアップ講座

期 日	内 容	備考
令和3年2月10日	①高齢者との上手な接し方 ②ささえあい活動について ③Excel 講座	※新型コロナウイルスの影響にて中止

▷ 地域書類作成支援ボランティア養成講座の様子



## (6) ボランティアコーディネート

ボランティアを必要とする方にボランティアを紹介するコーディネート事業を実施した。本年度は新型コロナウイルスの影響で地域からのボランティア依頼者や、ボランティア提供者の双方が活動を自粛したことから、コーディネート件数が大幅に減少した。

本年度は登録するボランティアに再登録を依頼し、ボランティアリストの更新作業を行った。

さらに、ボランティアグループの設立について相談があったため、一緒にディスカッションを重ねボランティアグループの立ち上げを支援した。また、企業ボランティアについても「ユナイテッドトヨタ熊本株式会社カローラ熊本荒尾店」からボランティア活動への申し出があったことから、ボランティアの現状などを説明し、荒尾市ボランティア連絡協議会への加入を促した。

ボランティアコーディネート数（単位：件）

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
コーディネート件数	116	154	63	114	15

## (7) ボランティア情報誌の発行

ボランティア活動の啓発を目的にボランティア活動保険、災害ボランティアセンターの活動状況、ボランティア養成講座の募集、荒尾市ボランティア連絡協議会の加入などの情報を掲載したボランティア情報誌を4回発行した。

また、社協内にボランティアセンターが設置されていることを知らない住民も多いことから社協内にボランティアセンターがあることについてもボランティア情報誌にて継続的に発信した。

○ボランティア情報誌の発行月 5月、9月、11月、2月

## (8) ボランティア連絡協議会活動支援と事務局運営

本年度はボランティア連絡協議会に新たに1団体が加入したため、現在は8団体となり、前年度よりも登録団体が増加した。近年、登録ボランティア団体の会員の高齢化が進んだことで活動休止や解散が相次いでいる。このような状況を踏まえながら、定例会にて事業計画の見直しを行ったが、団体によってボラ連に対する考え方や捉え方に違いがあり意見がまとまらなかった。

実施した行事等

期 日	内 容（行 事 名）	場 所
令和2年7月12日 ～令和2年8月8日	災害ボランティアセンター運営への協力	総合福祉センター
6月・7月・9月・ 10月・12月・2月	定例会	総合福祉センター

○その他の参加行事

新型コロナウイルスの影響があり参加予定をしていた事業の全てが中止になった。

(9) ボランティア活動保険窓口業務

新型コロナウイルスの影響によりイベント等の開催が中止になったことで、保険への加入者が大幅に減少した。

	H29年度		H30年度		R元年度		R2年度	
	件数	人数	件数	件数	件数	人数	件数	人数
活動保険	81	607	44	563	48	472	72	390
行事用保険	18	1,912	12	951	11	1,220	1	290

【基本目標1－(5) 共生社会の推進】

(10) 生活支援ボランティア事業（住民参加型在宅福祉サービス）

①生活支援ボランティア事業

本年度は新型コロナウイルスの影響で事業を一定期間中止したため、昨年度に比べてボランティアの活動件数が減少した中でゴミ出しの依頼件数の増加が目立った。また、エアコンの清掃や庭の草むしりなどボランティアの専門性を問うようなニーズが増加しており、ボランティアでは対応できない事例も多くなってきている。このことを踏まえ、地域包括支援センターと合同会議を開き、生活支援ボランティア事業の見直しを検討した。事業開始から3年が経過したことから登録するボランティアに活動の意思確認と再登録の意向を調査した。

依頼・実施件数

	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
依頼件数	74	123	170	88
実施件数	43	108	307	171

コーディネート対応状況

内 訳	参加者数
申込件数	88件
ボランティア活動回数	171回
職員対応回数	327回
職員対応時間	165時間

## 事業利用状況

内 容	件数	内 容	件数	合計件数
傾聴	5	照明器具交換	2	171
水やり	0	家屋修繕	0	
ゴミ出し(リサイクル出し含む)	98	布団干し	0	
付添い	7	その他	58	
季節物の出し入れ	1			

### ②生活支援ボランティア養成講座

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため事業を実施することができなかった。

### ③生活支援ボランティアフォローアップ講座

本年度の生活支援ボランティアフォローアップ講座は、マッチングの省力化を図るための準備として「LINE の使い方」についての講座を実施した。この講座で令和 2 年度上半期の活動報告や、令和 3 年度に向けた研修内容や活動に対するボランティアとの意見交換を行った。

#### 生活支援ボランティアフォローアップ講座実施状況

期 日	内 容	参加者
令和 2 年 11 月 26 日	①LINE でできること、②LINE の使い方（利用登録、お友達、社協公式アカウント登録）、 ③令和 2 年度生活支援ボランティア事業実績報告（上半期）、④ささえあい活動について	6 人

### (1 1) 地区協議会地域福祉部会の設置

地区協議会地域福祉部会設立に向けた調査・検討を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため地域の会合が中止となり実施できなかった。また、今後を見据え、荒尾市らしいいきいき課との打合せを 2 回行った。

## 基本目標 2

## 福祉サービスを利用しやすい「あらお」にしよう！

基本目標2の推進に当たっては、新型コロナに対応した貸付けや生活困窮世帯への支援を重点的に取り組んだ。また中核機関を受託し、権利擁護・成年後見センターの体制整備を推進した。

### 【基本目標2－（1）きめ細やかな情報提供】

#### （1）社協だよりの発行

本年度も社協の地域福祉活動の啓発を中心にした紙面構成で6回発行した。2年度の目標である「情報量の増加」に努め、かつ見やすい紙面づくりを心掛けた。

発行月・日	配付方法
奇数月 1日発行	各家庭に配布

### 【基本目標2－（2）包括的な相談体制づくり】

#### （2）共生社会の構築に向けた総合相談事業の検討

##### ①総合相談

本年度から総合相談を開始し、伴走型の相談支援を展開した。各関係団体と連携し、フードバンク、生活福祉資金の貸付などの活用を図ることで、多くの住民の相談に伴走することができた。新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、生活に困窮する方からの相談が増えたことから、フードバンクや調理器具の貸出しのような側面からの支援策についても強化を図った。また、相談の中から多くのニーズが見えたことから、臨時レスキュー事業など新規事業の展開を検討し、令和3年度の新たな事業として開始することにした。

##### 総合相談対応件数

	R2年度
相談件数	52件
伴走対応件数	298件

##### ②生活困窮者緊急・一時支援事業

経済的に困窮され緊急に支援が必要な方を対象に生活困窮者緊急・一時支援事業を実施した。熊本県のコロナ対策の補助金を申請して、12月から3月までの期間に生活についての相談があった9名に対し、ライフラインの復旧、一時的な住まいの確保、食料の提供などの支援を行った。また、その後の世帯の立ち直りも伴走を継続しており、フードバンク事業とともに総合相談における支援ツールの一つとして機能した。

##### 生活困窮者緊急・一時支援事業支援数

支援件数	支援額	支援内容
9人	323,357円	滞納した電話代の支払い、宿泊費用の支払い、ガソリンの給油、食料・日用品の購入など

### (3) フードバンク事業

#### ①フードドライブ

生活に困窮される方などに食料を提供するため、家庭や地域、企業等から不要となった食品等を寄付してもらってフードドライブを実施した。本年度は熊本県と共同募金会から募集のあった生活困窮者支援に対する補助金や助成金を活用して多数の食品や物品を購入することができた。また、サロンや民児協理事会、地区民協などでフードバンク事業についての説明を行い、寄付を呼び掛けたところ、多くの方から協力を得ることができた。

フードドライブ事業の取組状況（単位：件・品）

	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
寄付件数	3	5	10	24
寄付食品数	467	443	585	1,471
寄付物品数	—	—	—	1,229

#### ②フードバンク

企業や個人から寄付された食品を、当面の食事の確保が困難な方に提供するフードバンク事業を実施した。本年度は新型コロナウイルスによる営業自粛や離職等が原因となる生活困窮の相談が増加したため、フードバンク事業から食品を提供した件数が大幅に増加した。新型コロナウイルスの影響が長期化したことにより、生活困窮世帯が増加することが予測されたことから、共同募金会や熊本県の生活困窮者支援の助成金を活用し多くの食品を購入した。また、一般財団法人からの寄付を財源に、4人以上の子どもがいる世帯に5キロの米を配布する「子供の支援プロジェクト事業」も実施した。

フードバンク事業の取組状況（単位：件・品）

	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
提供件数	23	18	49	81
食品提供数	360	168	940	1,880
物品提供数	—	—	—	685

▷  
フ  
ー  
ド  
バ  
ン  
ク  
寄  
贈  
時  
の  
様  
子



子どもの支援プロジェクトの取組状況

	世帯数
貸付利用者	27 世帯
保育園通園世帯	78 世帯
幼稚園通園世帯	20 世帯



#### (4) 生活困窮者食事支援事業

フードバンクでの食料支援では対応ができない生活困窮者に対し、ふれあい福祉センターで調理した食事を提供する事業であり、本年度は衰弱により入院が必要な方の食事確保についてこの事業で対応した。

生活困窮者食事支援事業の取組状況（単位：人・食）

	R元年度	R2年度
利用者数	1	1
提供食数	20	9

#### (5) 子ども食堂実施のための調査・検討

地区協議会地域福祉部会に働きかけを行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大により、地区協議会の活動が自粛となったため、事業を進めることができなかった。荒尾市らしいいきいき課、地区担当職員及び社協の三者で会議を行い、今後の地区協議会地域福祉部会の進め方を検討した。

#### (6) 生活福祉資金・生活資金の貸付

##### ①生活福祉資金

新型コロナウイルス感染症の影響によって休業や失業等により一時的に収入が減少した世帯に生活費を貸付ける緊急小口資金と収入減少が長期にわたる世帯には、生活の立て直しまでの一定期間の生活費を貸付ける総合支援資金の特例貸付を実施した。また、生活相談センターと連携し単なる資金の貸付だけでなく経済的自立に向け継続的に寄り添う相談支援をセットで対応した。7月の豪雨災害についても緊急小口資金の特例貸付を実施した。

生活福祉資金 貸付・償還対応等件数（単位：件）

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
貸付対応件数	183	248	268	256	1,987
償還対応件数	97	160	130	105	30
申請決定数	4	6	5	4	402

##### ②生活資金

経済的に困窮している世帯に生活費の緊急貸付けとして、主に生活保護申請者の支給開始までのつなぎとして資金を貸し付けており、関係団体と連携を図りながら事業を実施した。

生活資金 相談・貸付件数（単位：件）

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
相談者件数	58	68	30	26	38
相談者延件数	291	101	147	76	61
貸付件数	30	14	21	19	21

## (7) 心配ごと相談事業

毎月第2水曜に熊本県司法書士会から相談員を派遣してもらい、心配ごとの相談を行っている。近年、相談者が増加傾向にあり、本年度も毎月相談枠がほぼ埋まっている状態となった。社協だよりへの掲載を増やした結果、相談件数が増加したことから、今後も社協だよりに掲載するなどして周知を図っていく。

心配ごと相談受付状況（単位：人）

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
相談数	9	10	8	18	20

## 【基本目標2－(3) 地域のニーズに対応したサービスの充実】

## (8) 介護予防・生活支援体制整備事業

本年度も生活支援コーディネーターを4名配置したことで社会資源の立ち上げなど多くの活動を行う予定にしていたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、ささえあい活動などの多くの事業を中止または延期することになった。そのような中、生活に直結する生活支援ボランティアの活動においてはゴミ出しと買物の付き添いを継続し、高齢者の生活を支援した。

これらの他にも地域書類作成支援ボランティアの養成や移動販売の地域へのコーディネート、地域活動における感染予防対策講習にも取り組んできた。ささえあい活動については新規に男性向けの集いの場をメニューに追加したところ、多くの地域から申請があった。

### ①地域資源・社会資源の立ち上げ

#### ○ささえあい活動の拡充

	新規個所数	地 区 名
サロン	1ヶ所	蔵満
見守り活動	3ヶ所	境崎、打越、田倉
買物支援販売会	1ヶ所	打越
日常生活	1ヶ所	岱洋東
買物ツアー	3カ所	猫宮、中央、打越
男性向け集いの場	10カ所	東宮内、北増永、緑ヶ丘、新町、猫宮、境崎、万田中、大平町、南増永、唐池

○ささえあい活動立ち上げ説明会 11回（再掲）

○コーディネーター対応回数 延31回

### ②地域活動の支援

○ささえあい活動に対する活動支援（再掲）

#### ○感染予防対策講習会

期 日 6月18日（木）、6月24日（水）、6月30日（火）

場 所 総合福祉センター大会議室

参 加 106名



○ささえあい活動交流会の開催  
 期 日 3月24日(水)、3月25日(木)  
 場 所 総合福祉センター大会議室  
 参 加 58名

○認知症声かけ、見守り訓練  
 コロナウイルス感染拡大のため実施なし

○コーディネーター対応回数 延615回

③貯筋体操活動支援

○新規立ち上げ地区

	新規箇所数	地 区 名
貯筋体操	1カ所	はつらつ3期

○自主活動開始地区

	箇所数	地 区 名
自主活動開始地区	0カ所	

○自主活動地区フォローアップ事業

実施区	参加者数	実施区	参加者数
川登	11名	住吉町	10名
大谷	14名	中増永	12名
深瀬ヶ丘	11名	山浦町	8名
田倉	11名	打越	19名
猫宮	8名		

○貯筋体操交流会  
 新型コロナウイルス感染拡大のため中止

④地域資源・社会資源調査活動

○社会資源調査

移動販売

- ・とくし丸に関してユーマートクナガと打合せ
- ・とくし丸に関して地域とのマッチング

⑤担い手の育成(養成講座の実施)

○フレイル予防サポーター養成講座

期 日 8月4日(火)、10月22日(木)、12月2日(水)

場 所 総合福祉センター大会議室

参加数 18名

○事務お助け隊養成講座

期 日 11月25日(木)、11月26日(木)、11月27日(金)

場 所 メディア交流館

参加数 9名

○生活支援ボランティアフォローアップ講座

期 日 11月26日(木)  
場 所 総合福祉センター大会議室  
参加数 6名

○生活支援ボランティア登録者数(3月末日現在)

	H30年度	R元年度	R2年度
生活支援ボランティア登録者数	113人	120人	18人

⑥コーディネート・マッチング

○生活支援ボランティア(再掲)

○コーディネート対応回数 (10)生活支援ボランティア事業(P10)に掲載

○ボランティア活動実施回数内訳 (10)生活支援ボランティア事業(P10)に掲載

○他事業所、ケアマネージャー等への地域資源の紹介

- ・地域資源の紹介対応件数 63件
- ・コーディネーター対応回数 235回

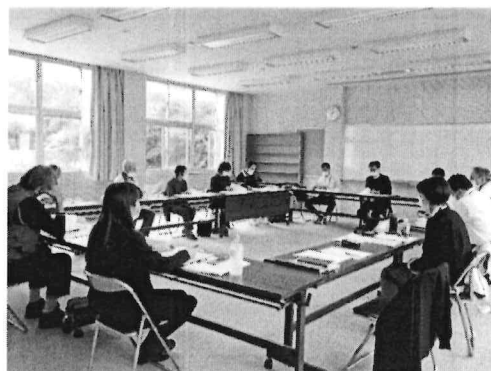
⑦各種会議への参加

○会議及び研修会への参加

新型コロナウイルス感染拡大により参加なし

○定例会議

会議名	実施回数
協議体	2回
地域ケア会議	6回
自立支援会議	3回
ケアプラン会議	10回



協議体の様子

⑧周知・啓発・視察等の受け入れ

新型コロナウイルス感染拡大により実施なし

(9) 訪問美容サービス

美容組合と契約し、自身で美容室に行くことができない方を対象に、自宅や高齢者施設まで美容師を派遣しカットなどの美容サービスを提供する。本年度は熊本県内で新型コロナウイルスの感染が拡大するたび、事業を中止したため利用者数が減少した。

訪問美容サービス事業実績(単位:事業所・人)

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
サービス提供事業所延数	164	128	132	152	43
延利用者数	819	686	696	806	332

## 【基本目標 2- (4) 適切なサービスの推進】

法人成年後見受任【地域福祉活動計画評価指標：目標 10 件】

### (10) 成年後見センター及び権利擁護推進センターの整備

荒尾市社協成年後見センターは、本年度にセンターとしての体制を整備し、法人後見事業及び地域福祉権利擁護事業を実施した。また、荒尾市から受託した荒尾市権利擁護推進センター（中核機関）においては、成年後見制度の周知・広報、令和 2 年度市民後見人養成講座の開講、出前講座の実施に加え、制度を必要とする方が適切に制度を利用することが出来るよう、新たに申立て支援を行った。

#### ①法人後見事業

令和 2 年度は、地域福祉権利擁護事業利用者を法人後見として受任し、本人の判断能力が低下しても継続して在宅生活を送ることができるよう支援を行った。

法人後見事業においては新規 6 件、死後事務 3 件、3 月末時点では受任件数は 9 件となっており、前年度末と比較して 3 件の受任件数増となった。

#### ○新規受任及び終了状況

	H29 年度	H30 年度	R 元年度	R2 年度	
後 見	1	1	6	6	認知症 5 名、知的障がい 1 名、精神障がい 1 名、その他 1 名
保 佐	1	1	0	0	精神障がい 1 名
補 助	0	0	0	0	
終 了	0	0	4	3	死後事務
年度末 合 計	2	4	6	9	

#### ○法人後見運営委員会の開催状況

期 日 令和 2 年 4 月 15 日、6 月 19 日、9 月 9 日、11 月 18 日、  
令和 3 年 3 月 24 日

場 所 総合福祉センター

内 容 後見受任についての審議

#### ②中核機関の受託（成年後見制度利用促進体制整備事業）

中核機関では、成年後見制度に関する相談及び申立て支援の機能として 8 名の申立て支援を実施した。広報及び啓発機能では市民向けや医療関係者向けに講座を実施した。また、担い手の養成として実施した市民後見人養成講座においては 4 名が修了した。

#### ○相談受付状況

	R2 年度
電 話	66 件
来 所	3 件
訪 問	23 件
その他	10 件
申立て支援	8 名（延べ支援回数 15 回）

○講演及び出前講座

期 日	内 容
令和2年10月7日	在宅ネットあらかし事例検討会講演 「病院・施設等における成年後見人等の役割」
10月20日	いきいき健康づくり教育講座講師 「はじめての成年後見制度」
11月20日	荒尾市虐待防止等対策地域協議会講演 「荒尾市社協成年後見センターの機能について」
令和3年2月16日	荒尾市ふれあい福祉センター職員研修講師

○令和2年度市民後見人養成講座＜全5回＞

期 日	内 容
令和2年10月2日 ～11月27日	基礎編（全3回） 10月2日、16日、30日 応用編（全2回） 11月13日、27日 R2年度修了生4名 (昨年度延期につき、R1年度受講生8名一部受講)

○会議及び研修会への参加

期 日	内 容	場 所	参加者
令和2年9月28日 ～9月29日	成年後見制度利用促進体制整備研修（基礎研修）	熊本市	1人
11月10日 ～11月12日	成年後見制度利用促進体制整備研修（応用研修）	熊本市	1人
12月18日	地域福祉権利擁護事業生活支援員等研修会	熊本市	2人
令和3年1月27日	後見人等への意思決定支援研修	熊本市	1人
3月11日	福祉関係者が知っておきたい「任意後見制度」	熊本市	1人

(11) 地域福祉権利擁護事業

本年度はコロナ禍の影響を受け、緊急事態宣言が明けた下半期に新規契約相談が集中した。専門員2名体制で契約業務にあたり契約待ちの解消に努めた。地域福祉権利擁護事業は新規契約9件、解約9件で3月末時点では契約者35名となっている。

事業利用状況（単位：件）

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
訪問件数	754	788	922	1,240	1,367
新規契約件数	9	8	9	11	9
解約件数	7	6	3	3	9
年度末契約件数	19	21	27	35	35

## 基本目標3

## 健やかで活力あふれる「あらお」にしよう！

「健康長寿社会」を目指し、介護予防のための貯筋体操を実施するとともに、新たにフレイル予防の教室やサポーター養成に取り組んだ。

### 【3-（1）地域ぐるみでの健康づくりと介護予防】

#### （1）地域介護予防支援事業（地域における貯筋体操実施の支援）

##### ①貯筋体操の指導

現在 43 ヶ所で実施。計画していた体力測定は新型コロナウイルスの影響により、約半数の区で実施できなかったことから、地域包括支援センターと地域リハビリテーション広域支援センターと連携し、各地区に出向き、モチベーションアップに向けた運動と栄養の講話を行った。

新型コロナウイルスの影響で、活動が中止となり支援回数・人数が減少したことにより、心身機能の低下が懸念されるため利用者全員に自宅でできる運動資料を送付した。新型コロナウイルス感染防止対策のため検温や消毒等の徹底と、熊本県コロナウイルス感染に関するリスクレベルに応じた体操実施の可否に関する判断情報を社協ホームページに掲載したことを周知した。

公民館へ指導者の派遣実績（単位：区・回・人）

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
実施箇所数	35	35	39	42	43
実施回数	682	631	814	778	367
延参加者数	8,231	7,068	8,450	8,113	3,395
延職員派遣数	1,384	1,227	789	919	478

##### ②はつらつ貯筋教室の開催

前年度まで総合福祉センターで実施していたこの教室を、新たに潮湯に併設された憩いの場を開催場所を移動した。本年度は新規に1教室を立ち上げ、現在は3教室を開催している。新型コロナウイルスの影響により活動が中止になり、支援回数・人数が減少した。地域の貯筋体操同様、家庭でできる体操のチラシを配布し、自宅での介護予防活動を促した。月に1度はサロンを開催しており、暮らしに役立つ情報や荒尾市の制度についての出前講座を行った。

はつらつ貯筋体操実施状況（単位：回・人）

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
実施回数	46	44	78	40	22
延参加者数	754	624	772	409	176
延職員派遣数	93	87	93	42	32
登録者数	39	41	58	28	30



△憩いの場サロンの様子

### ③地域介護予防継続啓発活動

地域での介護予防活動を継続させることを目的にモチベーションアップ講座を9ヶ所で開催した。外部の専門職を講師に招き、介護予防の必要性についての講話を行った。

#### 事業利用状況

期 日	地 区 名	参加者
令和2年12月1日	川登	11名
12月2日	大谷	14名
12月7日	深瀬ヶ丘	11名
12月7日	田倉	11名
12月8日	猫宮	8名
令和3年3月17日	住吉町	10名
3月18日	中増永	12名
3月25日	山浦	8名
3月30日	打越	19名

### ④貯筋体操交流会

多くの参加者が集まることで感染リスクが高まるため中止した。

## (2) フレイル予防サポーターの養成

### ①フレイル予防サポーター養成講座

新型コロナウイルスの感染拡大により、延期していた令和元年度分の講座を本年度実施した。16名が全過程を修了しサポーターとして登録された。また、令和2年度のフレイル予防サポーター養成講座は新型コロナウイルスの影響により実施できなかった。

#### 養成講座の内容

期日	内容	参加者
令和2年8月4日	『体とフレイル 筋肉と転倒に着目して』筋肉編	16人
10月22日	『体とフレイル 筋肉と転倒に着目して』転倒編	18人
12月2日	心のフレイル認知症『病氣』を患う『ひと』の理解について 閉講式	16人

## ②フレイル予防サポーターフォローアップ講座

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和元年度に予定していた講座が修了できなかったため、フォローアップ講座についても開催することができなかった。

## (3) フレイル予防教室（受託）

介護保険事業等の通所系サービスの対象ではないが、地域公民館で開催される体操教室に参加することが難しい高齢者を対象にした送迎付きの体操教室を開始した。新型コロナウイルスの影響により、事業の開始が10月にずれ込んだため、当初の予定より少ない実施回数となった。年末の感染再拡大により事業を停止した際には体調、困りごと等の聞き取りや定期的に運動資料を送付し、家庭での運動を促すなど心身機能が低下しないよう取組みを行った。

教室の開催状況（単位：回・人）

期日	実施回数	参加数	支援人数
火曜クラス	14	137	34
金曜クラス	14	80	31

## 【3-（2）子どもの健やかな成長】

## (4) 子ども食堂、コミュニティ食堂実施のための調査・検討（再掲）



## 基本目標4

## 安心・安全に暮らせる「あらお」にしよう！

7月豪雨災害で被災した世帯の復旧を支援するため災害ボランティアセンターの運営に取り組んだ。被災した世帯への布団等物資の提供及び床下の衛生講習会を併せて実施した。

【基本目標4ー（1）緊急時・災害時の助け合いのしくみづくり】

防災ボランティアの登録数【地域福祉活動計画評価指標：30人】

### （1）防災ボランティアの養成

本年度は7月6日の豪雨により、河川が氾濫し市内いたる所で浸水被害が発生した。被災者から浸水した家屋の復旧方法について問い合わせがあったことから、本年度の防災ボランティア養成講座で水害後の家屋復旧についての講座を実施した。災害NGO結の前原土武代表を講師に招き、床下の模型を使った水害後の家屋復旧の方法について講演を行い、21名の方が受講した。講座終了後のアンケートでは14名から災害ボランティアセンターの活動に協力できるという回答があった。

また、朝日新聞厚生文化事業団災害支援助成金を活用し、7月豪雨災害の被災地域2ヶ所でも同様の講座を開催した。

#### 養成講座・ボランティア登録者数の推移

期日／場所	内容	講師	参加者
令和2年11月12日 ／万田炭鉱館	講座①災害とは？被害とは？支援とは 講座②水害後の家屋復旧について 講座③被災地との関わり方 講座④過去の災害地の事例	災害NGO 結～Yui～ 代表 前原土武氏	21人

#### 養成講座・ボランティア登録者数の推移

	H30年度	R元年度	R2年度
参加者	46人	45人	21人
登録者	1人	16人	2人
登録者累計	1人	17人	19人



◁防災ボランティア養成講座



◁床下衛生講習会の様子



## (2) 災害ボランティアセンターの設置、研修、訓練

### ①災害ボランティアセンターの設置

7月6日の豪雨により関川のいたるところで氾濫し、多くの浸水被害が発生した。翌日7日から浸水被害が多かった井手川地区の区長と一緒にニーズ調査を開始し、災害ボランティアセンター設置のための準備に取り掛かった。10日には荒尾市災害ボランティアセンターの設置を宣言し、ボランティア募集の周知を開始した。12日から活動を開始し、初日は一般ボランティアの受け入れは行わず、荒尾建設業協会、荒尾青年会議所、荒尾商工会議所、荒尾市役所の職員で活動を実施した。13日から一般ボランティアの募集を開始し7月26日までは毎日型で運営を行った。月末になり活動依頼が落ち着いてきたことから、7月27日からは土曜日限定する週末型に移行し、全ての依頼への対応が完了したことから8月8日をもって閉所した。その後の依頼については通常のボランティアセンターで対応し、依頼があるごとに登録されたボランティアに連絡をして復興支援を継続した。

さらに水害後に寄り添う支援として、被災者の避難先への訪問調査活動も行い、健康状態や困りごとの調査、罹災証明や見舞金等の申請支援などについても積極的に取り組んだ。また冬場を迎えるにあたり、冬用の布団や衣料、暖房器具の保有状況の調査を行い、浸水により必要な世帯には助成金や寄付を活用して配布を行った。さらに被災地区住民に向け、浸水被害後の床下の対処方法を学ぶ講座を2回開催し、多くの住民に適正な対処の必要性を啓発した。

#### 荒尾市災害ボランティアセンター活動状況

ニーズ 総数	ボランティア 活動件数	ボランティア 参加人数	活動延べ 人数	終了 ニーズ	自力完了 ニーズ
102件	117件	615人	742人	87件	15件

#### 布団、暖房器具の提供状況

提供品	提供内容	提供した世帯	個数
布 団	布団セット	7世帯	16セット
	掛布団のみ	1世帯	1枚
	毛布のみ	1世帯	4枚
暖房器具	電気ストーブ	4世帯	4個
	カーペット	2世帯	2個

#### 床下衛生講座の開催状況

期日／場所	内 容	講 師	参加者
令和2年11月8日 ／古庄原公民館	講座①災害とは？被害とは？支援とは 講座②水害後の家屋復旧について	災害 NGO 結～Yui～ 代表 前原土武 氏	45人
令和2年11月15日 ／万田炭鉱館	講座③被災地との関わり方 講座④過去の災害地の事例		32人

### ②災害ボランティアセンター設置訓練

本年度は7月に災害ボランティアセンターを設置し災害復旧にあたったことから訓練としては実施しなかった。総合福祉センターとふれあい福祉センターが避難所に指定されていることから市の担当者と、動線や避難スペース、避難所の在り方などの検討を行った。

③災害ボランティアセンターへの職員派遣

荒尾市災害ボランティアセンターを閉所した後、人吉市と球磨村災害ボランティアセンターに熊本県派遣職員として職員を派遣した。

派遣期間	派遣地	内容	人員
令和2年 9月3日～5日	球磨郡球磨村	災害ボランティアセンター運営支援	2人
9月10日～13日			2人
11月20日～22日			2人
令和2年 10月8日～11日	人吉市		2人
10月15日～18日			2人

【基本目標4－（2）地域ぐるみでの見守り・防犯活動】

（3）福祉委員の見守り活動

本年度から新たな任期を迎え95名の福祉委員を配置することができた。新型コロナウイルスの感染拡大により、ほとんどの活動を中止せざるを得ない状況となった。感染が下火になった9月から説明会を開催して訪問活動を再開したが、年末以降、感染が再拡大したため、1年間ほぼ活動ができない状態であった。

○福祉委員定数 123名

福祉委員活動延件数（単位：人・件）

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
福祉委員委嘱数	99	89	90	90	96
相談件数	398	232	180	190	63
友愛訪問	9,676	8,111	9,223	7,286	3,414
情報提供	4,280	3,514	2,219	1,795	721
電話、その他	1,238	940	1,126	1,644	849
相談等合計	15,592	12,797	12,748	10,915	5,047

## 在宅生活支援サービス部門

### 【ヘルパーステーション】

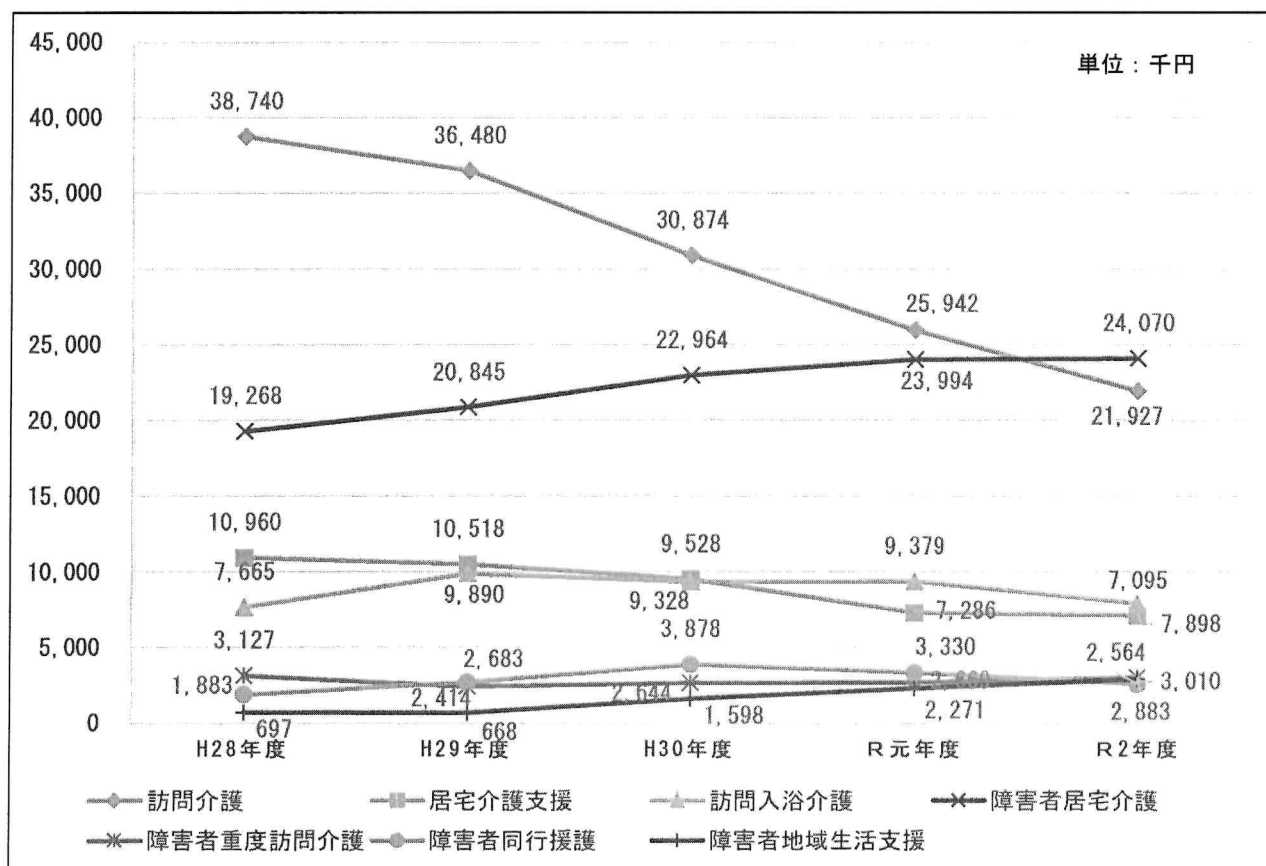
ヘルパー非正規職員の高齢化、退職等に伴う職員数の減少、求人の応募がほとんどない状況で、担い手となる人材の確保は、引き続き厳しい環境が続いている。また、訪問介護事業は利用者数の減少に伴い訪問回数が減少しているが、それとは逆に、障害者居宅介護及び重度訪問介護の訪問回数が微増となった。今後は処遇等労働条件の見直しを図り、介護人材の確保を進める。

○在宅福祉課の職員体制（単位：人）

		H29 年度末	H30 年度末	R 元年度末	R2 年度末
居宅介護支援		3	2	2	2
ヘルパー ステーション (障害含む)	常勤	9 (6)	8 (6)	8 (5)	7 (5)
	パート	1	1	2	3
	登録	10	11 (2)	12 (3)	7
訪問入浴 (障害含む)		1 (6)	2 (5)	0 (7)	0 (7)
計		24	24	24	19

※ ( ) は兼務者数

### ヘルパーステーション収益の状況



## (1) 訪問介護事業

利用者が可能な限り居宅において個人の能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう配慮して、介助面における身体介護、家事面における生活援助等のサービスの提供を行った。新型コロナウイルス感染症の感染拡大もあり新規の利用者は少なかった。2月頃から徐々に件数が増えつつある。

### ○外部研修

実施日	内容	場所	参加者
令和2年7月18日	第1回主任ヘルパー情報交換会	熊本市	1人
12月4日	令和2年度介護サービス事業者支援研修会	荒尾市	7人
12月10日	第1弾オンライン ～ICTの活用に向けた意見交換・情報交換会～	荒尾市	1人
2月19日	介護の森研修・令和3年度報酬改定について①	荒尾市	1人
3月18日	介護の森研修・令和3年度報酬改定について②	荒尾市	1人

### 訪問介護事業利用延件数

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
利用者数	1,063	1,059	845	669	564
訪問回数	11,983	10,851	9,051	7,116	5,447



△研修会の様子



△会議の様子

## (2) 訪問入浴事業

自宅での浴槽に入浴が困難な方に対し、専用の浴槽を持参して入浴サービスを提供した。本年度は、初めて介護予防訪問入浴介護の利用があったが、亡くなられたため2度の利用で終わった。他にも担当者会議をした後に亡くなられたり、利用なく終わったケースもある。介護度が高く、状態が悪い方の利用が多いため、入院入所による利用の減少が多い。新型コロナウイルスの感染拡大の影響があったためか、新規利用の依頼が少なかった。

○実施した新たな取り組み

- ・研修を通して、サービスの質の向上に取り組み、安心して入浴できるよう努めた。
- ・感染症予防のため、感染症マニュアルを活用し、機材の徹底した消毒等実施した。

訪問入浴介護事業利用延件数

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
利用者数	135	156	144	126	113
訪問件数	598	754	707	704	528

(3) 居宅介護支援事業

アセスメント、プランニング、モニタリングといった、PDCA（計画・実行・評価・改善）サイクルを経て、要介護者等の目標を設定し達成に向けたケアプランを作成し、常に利用者が自立した日常生活ができるよう援助を行った。介護保険被保険者証の更新においては新型コロナウイルス感染拡大により一年間の継続更新となったため有効期間延長の手続きを行った。困難事例もケースごとに積極的な対応を行っている。

利用者や家族との信頼関係を保ち、必要に応じてサービスの調整を行った。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い新規利用が少なかったため減収となったことから、新規利用者を紹介してもらえよう各関係機関との連絡調整を行っている。

○外部研修

実施日	内容	場所	参加者
令和2年12月4日	令和2年度介護サービス事業者支援研修会	荒尾市	1人
12月9日	主任ケアマネ研修	荒尾市	1人

居宅介護支援事業利用延件数

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
居宅介護支援	836	905	810	607	551
介護予防支援	166	66	79	64	71
合計	1,002	971	889	671	622

(4) 介護保険対象外ホームヘルプ事業

介護保険では対応できない当事業所独自のサービスを提供し、在宅生活を充実させる援助を行った。できる限り利用者やご家族の意向に沿うサービス提供を心がけ、多くの突発的な利用依頼も受け、サービスを提供したため利用が増えた。

介護保険対象外ホームヘルプ事業利用延件数

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
上乘せサービス	14	14	15	7	0
横だしサービス	73	56	42	34	35
横だしサービス訪問回数	213	180	194	147	196

### (5) 居宅介護・重度訪問介護・同行援護事業

居宅介護、重度訪問介護については、利用者宅を訪問し、入浴・排せつ・食事等の身体介護、調理・洗濯・掃除等の家事援助、その他生活全般にわたるサービスを行った。同行援護は、視覚障がいにより移動が著しく困難な利用者に対し、外出時において同行し移動の援護、移動に必要な情報提供、排泄及び食事等の介助等、外出時に必要なサービスを行った。

居宅介護は、精神障害の新規利用者が増加したが 急なキャンセル等も多く支援の難しさを感じている。重度訪問介護の利用者は1名と変わりなく、同行援護については新型コロナウイルス感染拡大防止のため、商業施設等への同行支援についてはお断りをし、必要最小限の支援となった。

○外部研修  
なし

#### 居宅介護・重度訪問介護・同行援護事業利用延件数

	H28年度		H29年度		H30年度		R元年度		R2年度	
	件数	訪問回数	件数	訪問回数	件数	訪問回数	件数	訪問回数	件数	訪問回数
居宅介護	197	3,485	250	3,734	272	4,239	261	4,245	277	4,255
重度訪問介護	12	1,012	12	782	12	885	12	917	12	926
同行援護	60	331	71	434	79	490	69	451	57	326

### (6) 地域生活支援事業

移動支援事業は、地域における自立生活及び社会参加を促すことを目的として屋外で移動が困難な障がいの者の外出の支援を行った。訪問入浴サービスは、身体障がいの者の身体の清潔保持、心身機能の維持を図ることを目的として居宅を訪問し、浴槽を提供して入浴の介護を行った。

移動支援事業の利用者1名は、2か月に1回行かれる美容室への移動支援を行った。もう1名はお墓参りの同行支援を実施した。

障害者訪問入浴については現在の利用人数は3名となり、利用回数も増加した。移動支援の利用者は前年度から1名と変わりなく、2か月に1回美容室への移動支援を実施。訪問入浴については2名の方が利用されている。

#### 移動支援・障がい者訪問入浴事業利用延件数

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
移動支援事業	6	5	6	6	7
障がい者訪問入浴	52	52	135	195	246



## 【交流拠点あおば】

### (1) 交流拠点あおば

平成17年度から児童と高齢者の交流拠点施設「あおば」を開所し、高齢者のデイサービス（地域密着型通所介護・総合事業通所型サービス A・C 事業）と学童保育、認知症カフェの3事業を運営している。児童と高齢者が同じ施設に集うことで、様々な行事を通じて交流を行うことができる施設となっている。

令和3年3月をもって、地域密着型通所介護、通所型サービス A 及び C 事業を廃止した。

#### ○交流拠点あおば全体行事

- ・例年行っている利用者全員での「あおば年末交流会」を実施した。

実施日 令和2年12月25日（金曜日）

参加者 利用者43人

#### ○あおば総合防災訓練

- ・火災や災害が発生した場合に迅速に利用者を安全な場所へ誘導できるよう訓練を行った。

実施日 令和3年3月26日（金曜日）

利用者4人 職員5人

### (2) デイサービス事業（地域密着型通所介護・総合事業通所型サービスA事業）

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、例年デイサービスで実施していた行事等を中止、または規模を縮小して実施した。緊急事態宣言の発出により、サービス提供時間の短縮や営業活動を自粛して実施した。新規の利用者が1名増加した。

#### ○実施した新たな取り組み

- ・新型コロナウイルス感染対策の徹底が利用者のストレスに繋がらないよう、レクリエーションのメニューに利用者の要望を多く取り入れたり、訓練の内容を楽しみながら取り組めるよう工夫した。



△デイサービスの様子

#### ○主なイベント等の実施状況

実施日	行事名	内容
令和2年12月25日（金）	年末交流会	デイサービス利用者7人

#### ○研修等の実施状況

なし

デイサービス事業延利用者数・事業収入（単位：日・人・千円）

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
開所日数	303	303	302	304	300
延べ利用者数	1,755	1,570	1,144	1,175	1,164
一日平均	5.79	5.18	3.79	3.87	3.88
事業収益	16,292	14,881	11,345	11,535	11,711

(3) 認知症カフェ

新型コロナ感染拡大防止の為、開所日数が前年の約半分になり、計画していた行事が殆ど出来なかった。開所日数の減少と新型コロナによる利用控えて、利用者は前年の半数以下になり新規の利用者は無かった。新規利用者の増加に繋げるべく、一小校区の民生委員に働きかけてカフェに参加頂いた。

新しい取り組みは出来なかったが、前年度実施して好評だったヤクルトの講座を活用した学習会を実施した。

○主なイベント等の実施状況

実施日	行事名	内容
令和2年10月14日	学習会	ヤクルト講習会

認知症カフェ開催状況（単位：日・人）

	H30年度	R元年度	R2年度
開所日数	47	42	21
延べ利用人数	471	406	183

(4) 通所型Cサービス

専門職による運動器機能の評価とそれに基づいたトレーニングの提供、生活能力向上のための指導助言を行い、心身機能の向上を目指した。

利用者の体調不良により2回程休止したが、それ以外は予定通り48回実施した。利用者の身体状況を的確に把握し、運動メニューや運動強度設定を随時見直し、目標達成のため最適のトレーニングの提供に努めた。

通所型Cサービス延利用者数・事業収入（単位：日・人・千円）

	H30年度	R元年度	R2年度
開所日数	75	44	48
延べ利用者数	139	44	48
一日平均	1.8	1.0	1.0
事業収益	360	120	128



## (5) 学童保育

新型コロナ感染拡大に伴う緊急事態宣言により、学校の休校措置後は一人一人の学習力をしっかり把握し、自宅学習のポイント等を伝えながら家庭との連携をはかった。

新型コロナ感染症感染予防のため、年度当初は休会し利用を控える児童がいた。また、大幅に夏季休暇が短縮されたため長期休暇の利用者が少なかった。

### ○実施した新たな取り組み

- ・緊急事態宣言に伴う休校時には、通常保育登録以外の児童の受け入れを積極的に行った。また、児童の学習スペースを2室に分け、感染防止策を講じ安全に児童の保育が出来る環境を整えた。
- ・これまで6時30分までだった延長保育を7時までとし、保護者の就労支援と時間外保育料負担の軽減に努めた。

### ○イベント等の実施状況

実施日	行事名	内容
令和2年12月25日	年末交流会（ビンゴゲーム大会）	児童36人

### ○研修等の実施状況

なし

### 学童保育事業利用状況

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
開設日数	291	292	289	287	287
通常登録児童数	42	44	34	35	33
長期休暇登録児童数	12	13	15	19	16
延べ利用者数	9,190	8,507	6,866	6,376	6,883



◁学童保育の様子

## 【ふれあい福祉センター】

### (1) ふれあい福祉センター管理運営事業

平成6年に開館し、心身障害者の福祉の増進と社会福祉活動の向上を図ることを目的に設置された公共施設で、本会が施設運営を担っている。

令和元年度からの5年間、第4期の指定管理を受託することになり、指定管理に係る基本協定書の定めに従い適切な施設運営に努めた。

新型コロナウイルス感染症の拡大により緊急事態宣言が発令され、貸館業務の中止や時間を短縮したほか、各団体の活動自粛などで本年度の利用者数は前年度から約1,000名減少した。

#### 利用状況

	H30年度		R元年度		R2年度	
	件数	利用延人員	件数	利用延人員	件数	利用延人員
障がい者関係	88	608	164	889	82	313
ボランティア	198	1,269	176	1,130	168	1,151
民生委員	12	144	9	108	11	105
保健所	0	0	0	0	0	0
学校関係	0	0	0	0	0	0
公務	27	171	77	517	27	150
社協	15	129	16	128	11	39
地域住民	0	0	0	0	0	0
その他	18	176	0	0	0	0
計	358	2,497	442	2,772	299	1,758
利用料収入(円)	200		400		0	

※貸館業務中止 令和2年4月11日～5月9日

※時間短縮(夜間午後8時まで) 令和3年1月14日～2月17日

#### ○ふれあい福祉センター全体行事

- ・毎年、近隣住民、ボランティアの参加により実施している「餅つき大会」は新型コロナウイルス感染症により中止した。

### (2) 食の自立支援事業

在宅の高齢者が健康で自立した生活を送る事が出来る様に、栄養のバランスのとれた食事を訪問により提供する事で、自立した生活を支援するとともに、安否の確認も行った。食の自立支援事業の新規の利用申請数は増えたが、経過措置として行っている福祉給食事業は利用者数が減少し、前年度に比べ利用者数延べ人数では246人、配食数は4,731食の減少となった。

#### ○実施した新たな取り組み

- ・季節感のある食事作りに努めた。

#### ○研修等の実施状況

なし

配食状況（単位：食・日・人）

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
昼食	16,783	17,162	13,700 (169)	10,734 (156)	9,539 (361)
夕食	49,927	48,975	39,338 (647)	30,626 (148)	27,090 (481)
合計	66,710	66,137	53,038 (816)	41,360 (304)	36,629 (842)
配食日数	257	256	256	257	255
実人員	307	261	209 (4)	165 (4)	148 (2)

※実人員は当該年度の3月末日。

※H30、R元～2年度の（ ）は新制度該当食数及び人員で内数



△弁当配達時に安否確認



△給食調理の様子

### (3) 生活介護事業

常に介護を必要とする障がい者に対して、入浴・排せつ・食事等の介護、調理・洗濯・掃除等の家事、生活等に関する相談・助言その他の必要な日常生活上の支援、創作的活動・生産活動の機会の提供のほか、身体機能や生活能力の向上のために必要な援助を行った。また、利用者の行動を制限する事のない自由な活動の提供を行った。

本年度は、1日あたり平均利用者が前年度に比べ、0.9人減少して18.3人となった。減少要因としては、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたことが大きい。1月には、本事業の利用者から感染者が発生した事により、3日間の休業及び利用者の利用自粛が増加した。また、毎日利用されていた方が病気により亡くなられたケースが2件あったが、既存利用者の利用回数を増やすことや関係相談員の紹介により、他事業所での受け入れが難しい障がい者を新たに受け入れたことにより減少を抑えた。

新型コロナウイルスの感染対策として、アクリル板の設置、換気の徹底、室温・湿度・二酸化炭素濃度の管理、空気清浄機の増台、利用者への感染予防の呼び掛けを行った。

新型コロナウイルス感染症対応の統一を図るため、感染症の発生時における業務継続計画の作成、外出や人が集まるイベントが開催できなかったため、内部で出来る新たなイベントの開催や移動販売を行った。

○実施した新たな取り組み

- ・自由な日中活動ができる時間と場所の提供を行った。
- ・個人の活動の機会を増やすことで新たに個人活動の時間をもつ利用者が増えた。



△ハロウィン週間の様子



△移動販売で買い物

○主なイベント等の実施状況

実施日	行事名	内容
7月13～17日	買物ツアー	買い物のために店舗へお連れした。
10月2日, 16日 11月13日 3月19日	移動販売	移動販売業者や荒尾市社会福祉協議会の売店にふれあい福祉センターに来てもらい商品販売を行った。
毎月第1月曜日	訪問理美容	自分で理美容店に行くことができない利用者の方へ、理美容師を呼び、ふれあい福祉センターにてヘアカットを受けていただいた。
10月26日 ～30日	ハロウィン週間	室内をハロウィンの飾り付けを行い、職員や利用者も仮装して日中活動に季節を感じることでできるイベントを行った。

○研修等の実施状況

実施日	研修名	場所	参加者
4月10日	障害福祉サービスにおける苦情の現状（内部研修）	ふれあい	10人
6月12日	バイステックの7原則（内部研修）	ふれあい	12人
8月7日	身体拘束廃止に関する指針（内部研修）	ふれあい	2人
8月7日	介護事故防止・対応マニュアルについて（内部研修）	ふれあい	2人
12月14日	感染症対策研修（オンライン研修）	ふれあい	1人
2月16日	荒尾市成年後見センターの役割（内部研修）	ふれあい	7人
2月25日	令和3年度介護事業所向け助成金と処遇改善加算について（オンライン研修）	ふれあい	1人
3月30日	社会福祉協議会の役割（内部研修）	ふれあい	8人

生活介護事業利用状況及び収益の状況（単位：人：日：千円）

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
男性利用者	2,203	2,600	2,581	2,913	2,483
女性利用者	2,143	2,506	2,883	3,022	3,029
合計人数	4,346	5,106	5,464	5,935	5,512
平均人数	14.2	16.7	18.1	19.2	18.3
実施日数	304	305	302	309	302
収益（自立支援給付及び利用料収入）	43,280	50,566	54,890	59,610	58,871

（４）地域活動支援センター

障がいを持って地域の中で生活している方に通っていただく「社会と繋がりながら過ごす日中の居場所」として、日常生活に必要な入浴・排泄・食事の提供を行いながら、社会生活にて他者と関わりを築くことを目的とした外出活動や創作活動、レクリエーション等のサービスを行った。本年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、利用を自粛される方も多く1日あたり平均利用者数は前年度に比べ、0.4人減少して2.3人となった。

感染予防対策として、来所前の検温とマスク着用の声掛け、館内では換気、座席の配置に距離を持ち、アクリルパネルの使用、空気清浄器の増台、消毒の実施回数を増やし、利用者同士の密に配慮するなどを行った。

○実施した新たな取り組み

- ・利用者の減少が年々続いているため、今までの地域活動支援センター事業の見直しを行った。その結果、利用対象者や料金、サービス内容等の変更を行い令和3年4月から新たな内容で事業を開始することとした。
- ・創作活動の充実を図るため新規にカメラ講座を開催し、利用者が撮影した画像をテレビ画面に写して鑑賞したり、館内に展示を行った。

○主なイベント等の実施状況

生活介護事業のイベントに同じ。

○研修等の実施状況

生活介護事業の研修に同じ。

地域活動支援センター利用状況及び収益の状況（単位：人・日・千円）

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
男性利用者	803	517	476	439	374
女性利用者	555	409	266	215	172
合計人数	1,358	926	742	654	546
平均人数	5.6	3.8	3.0	2.7	2.3
実施日数	241	243	244	240	238
収益（自立支援給付及び利用料収入）	4,986	4,706	4,508	4,469	4,348



講座別延利用者数（単位：人）

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
パソコン	51	3	3	10	10
生花	51	60	30	22	13
書道	68	61	34	28	17
カラオケ	37	5	3	13	0
ぬり絵・工作	0	0	0	0	40
合計	207	129	70	73	80



◀ 生花講座の様子



◀ カメラ講座の様子

（5）児童発達支援、放課後等デイサービス

障害児通所支援では、何らかの障がいを持つ子どもたちがその能力を最大限に活用しながら自立に向けて成長できるよう、発達の状態を適切に見立てて直接的な支援を行うとともに、保護者や関係機関との連携により人的環境や物理的環境の調整など間接的な支援も行った。

学校、幼稚園、保育園における支援のあり方について保護者から相談を受けることが増え、授業見学や支援会議の機会を多く持った。その中で、学校や園が職員不足等の困り感を抱えており、個々に合わせた特別支援を提供できる体制を整えることが難しい状況にあることが分かった。

インクルーシブ教育（障がいのある子どもと障がいのない子が共に教育を受けること）のニーズのあるケースについて保護者ととともに学校と話し合いを重ね、現状で可能な支援の方法を模索している。

新型コロナウイルス感染症予防のための利用控え、感染者発生時の休業、豪雨災害や大型台風時の休業等により、延べ324名（コロナ274名、豪雨・台風50名）のキャンセルがあった。

新型コロナウイルス感染予防対策としては基本的な感染予防対策、居室・玩具の消毒、利用者の分散した送迎を行い、自己評価の結果の開示をもって保護者へ通知している。

○実施した新たな取り組み

- ・親子療育時の保護者グループ相談会の支援を、前年度までは管理者もしくは児童発達支援管理責任者の一人体制で行っていたが、常勤職員の交代制（2～3人体制）とすることで、保護者支援スキルの向上に取り組んだ。

○主なイベント等の実施状況

実施日	行事名	内 容
令和2年6月25日	就学学習会	小学校入学前の保護者向け説明会・相談会



○研修等の実施状況

実施日	研 修 名	場所	参加者
令和2年9月8日	身体拘束検討委員会 「生活介護事例検討」	ふれあい	3人
11月10日	有明圏域障がい者と共に生きる支援協議会子ども部会 「コロナ禍での活動について」(外部研修)	玉名市	1人
11月13日	ケース研修	ふれあい	8人
12月6日	発達診断オンラインセミナー 「教育と保育のための発達診断」(外部研修)	ふれあい	2人
12月14日	部下の育成方法及び接し方	社協本部	1人
12月23日	ケース研修	ふれあい	8人
令和3年1月12日	感染症対策オンライン研修	ふれあい	1人
2月16日	荒尾市社協成年後見センターの役割	ふれあい	5人
3月2日	人事考課評価者研修	ふれあい	1人
3月4日	熊本県サービス管理責任者及び児童発達支援管理 責任者更新研修(外部研修)	熊本市	1人
3月9日	身体拘束検討委員会 「障害児通所支援事例検討」	ふれあい	3人
3月19日	報酬改定について	ふれあい	3人
3月29日	社会福祉協議会の役割	ふれあい	3人



児童発達支援利用状況（単位：人・日）

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
男 性	528	551	541	704	629
女 性	187	193	176	268	190
合 計	715	744	717	972	819
平 均	4.73	4.80	5.2	4.65	3.47
実施日数	151	155	138	209	236

放課後等デイサービス利用状況（単位：人・日）

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
男 性	1,429	1,459	1,451	1,264	1,010
女 性	209	401	443	345	302
合 計	1,638	1,860	1,894	1,609	1,312
平 均	7.65	7.78	8.38	7.28	6.94
実施日数	214	239	226	221	189

児童発達支援・放課後等デイサービスの収益の推移（単位：千円）

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
事業収益	25,797	28,904	26,221	29,330	24,822

（6）相談支援事業

荒尾市社協相談支援センターあゆみでは、利用者等が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるように、コロナ禍の中、利用者等の心身の状況、その置かれている環境等に応じて利用者等の選択に基づき、適切な福祉サービス等が総合的かつ効率的に提供できるよう努めた。

本年度「障がい者」の新規サービス利用件数は4件で就労支援A型事業所、ヘルパー事業所等を紹介した。サービスを終了された方は5件で介護保険に移行されたり、亡くなられたり等だった。「障害児」の新規サービス利用件数は7件で内3件はふれあいなかまの利用者だった。サービスを終了された方は5件で全てサービスを卒業された。相談支援利用契約者は前年度並みの92件となった。

障がい者（児）等の自宅やサービス事業所、学校を訪問し情報を共有することで関係機関との連携を深め、又加算につなげていく予定だったが、コロナ禍のため利用者のサービス利用時に事業所等の見学へ行くことが困難な状況もあり、加算につなげることができず関係機関とは電話にて対応した。

○実施した新たな取り組み

- ・有明圏域障がい者と共に生きる支援協議会の災害プロジェクトチームが開催した避難行動要支援者登録に向けての協議に参加した。災害時や緊急時に備える取り組みとしては、7月豪雨に社協職員としてボランティア活動に参加した。会議はコロナ禍のため開催されず、荒尾市福祉課と一緒に避難行動要支援者宅2件を訪問して状況を確認した。

○研修等の実施状況

実 施 日	研 修 名	場 所	参加者
9月8日	身体拘束廃止委員会の検討会	ふれあい	1人
11月10日	有明圏域障がい者と共に生きる支援協議会子ども部会	玉名市	1人
11月18日	有明圏域障がい者と共に生きる支援協議会定例会議	和水町	2人
2月16日	荒尾市社協成年後見センターの役割	ふれあい	2人
3月9日	身体拘束廃止委員会の検討会	ふれあい	1人
3月29日	社会福祉協議会の役割	ふれあい	1人

相談支援利用者数・事業収益（単位：件・千円）

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
計画相談支援	42	46	49	48	47
障害児相談支援	37	41	39	43	45
合 計	79	87	88	91	92
事業収益	3,385	3,272	3,615	4,007	3,408

## 法人運営部門

### (1) 理事会開催状況

会議名	開催日	提出議案
第1回	令和2年 5月29日	議案第1号 令和元年度事業報告及び資金収支決算について 議案第2号 令和2年度資金収支補正予算（第1号）について 議案第3号 理事の推薦について 議案第4号 評議員の推薦について 議案第5号 評議員選任・解任委員会委員の選任について 議案第6号 評議員会の開催について
第2回	10月2日 (書面決議)	議案第7号 令和2年度資金収支補正予算（第2号）について 議案第8号 評議員会の開催について
第3回	10月29日	議案第9号 収益事業（市民病院内売店）の廃止について 議案第10号 評議員会の開催について
第4回	12月17日	議案第11号 老人デイサービス事業の廃止について 議案第12号 令和2年度資金収支補正予算（第3号）について 議案第13号 評議員会の開催について
第5回	令和3年 3月19日	議案第14号 令和2年度資金収支補正予算（第4号）について 議案第15号 令和3年度事業計画及び資金収支予算について 議案第16号 定款変更について 議案第17号 経理規程の一部改正について 議案第18号 評議員会の開催について 議案第19号 理事の推薦について
第6回	3月31日 (書面決議)	議案第20号 常務理事の選任について

### (2) 評議員会開催状況

会議名	開催日	提出議案
第1回	令和2年 6月15日	議案第1号 令和元年度事業報告及び資金収支決算について 議案第2号 令和2年度資金収支補正予算（第1号）について 議案第3号 理事の選任について
第2回	10月14日	議案第4号 令和2年度資金収支補正予算（第2号）について
第3回	11月10日	議案第5号 収益事業（市民病院内売店）の廃止について
第4回	12月24日	議案第6号 令和2年度資金収支補正予算（第3号）について 報告 老人デイサービス事業の廃止について
第5回	令和2年 3月26日	議案第7号 令和2年度資金収支補正予算（第4号）について 議案第8号 令和3年度事業計画及び資金収支予算について 議案第9号 定款変更について 議案第10号 理事の選任について

### (3) 監査開催状況

監査日時	内容
令和2年5月14日・15日	令和元年度監査

#### (4) 会費制度

会員加入状況（単位：件・円）

		H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
一般会費	件数	73	32	54	64	49
	金額	36,500	16,000	27,000	32,000	24,500
賛助会費	件数	426	434	429	407	420
	金額	426,000	434,000	429,000	407,000	420,000
特別会費	件数	35	37	31	34	31
	金額	350,000	370,000	310,000	340,000	310,000
合 計	件数	534	503	514	505	500
	金額	812,500	820,000	766,000	779,000	754,500

#### (5) 香典返し及び一般寄付

寄付申込み状況（単位：件・円）

		H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
香典返し 寄 付	件数	351	326	308	313	264
	金額	4,251,000	3,844,000	3,713,000	3,851,000	3,447,000
一般寄付	件数	12	9	14	15	20
	金額	389,992	243,411	1,351,536	659,932	2,425,222
合 計	件数	363	335	322	328	284
	金額	4,640,992	4,087,411	5,064,536	4,510,932	5,872,222

#### (6) 広報活動

広報紙発行状況（再掲）

	発行回数	配布方法
社協だより	年6回	全戸配布
ボランティア情報	年4回	班回覧

#### (7) 苦情・事故等

本会が行う事業やサービスについて、利用者等から困りごとの相談や苦情を受け付け、話し合いにより解決・改善に努めた。また、福祉サービス等の提供に伴う事故や交通事故が発生しているため、今後このようなことがないように安全に配慮したサービス提供に努める。

苦情受付等処理状況

	管理課	潮湯	在宅福祉課	あおば	ふれあい	合計
苦情受付	0	0	6	2	0	8
事故報告	0	0	0	2	1	3
顛末書	0	0	0	0	1	1
始末書	0	0	0	0	0	0

○研修等の実施状況

実施日	研修名	場所	参加者
令和2年11月30日	福祉サービス苦情解決第三者委員研修会	熊本市	2人

(8) 赤い羽根共同募金・歳末たすけあい募金事務

本会は、社会福祉法人熊本県共同募金会荒尾市共同募金委員会の事務局を運営している。

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、さまざまな制限を受けての募金活動となったが大幅な募金額の減少は回避できた。

共同募金実績額（単位：円）

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
共同募金額	8,213,011	8,050,119	7,487,847	7,201,020	7,044,955
前年度比	△0.1%	△2.0%	△7.0%	△3.8%	△2.2%

共同募金配分金実績額（単位：円）

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
配分金額	5,005,768	4,998,011	5,000,119	4,562,847	4,471,020
前年度比	△7.4%	△0.2%	+0.0%	△8.7%	△2.0%

交付された配分金は、福祉のまちづくりを推進するため福祉団体等が行う活動に対し助成金として配分した。本会が行う福祉委員の活動やささえあい活動にも配分している。

共同募金助成金実績（単位：件・円）

区分	H30年度		R元年度		R2年度		備考
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	
老人福祉活動	1	225,000	1	225,000	1	225,000	老人クラブ連合会
児童・青少年活動	6	235,000	5	199,000	5	197,000	子ども会連合会他
障害児・障害者福祉活動	2	280,000	2	280,000	2	280,000	手をつなぐ育成会他
福祉育成・援助活動	17	3,632,119	12	3,263,779	10	3,169,020	福祉委員連絡協議会他
歳末たすけあい活動	1	628,000	1	595,068	1	600,000	地域活動助成
合計	27	5,000,119	21	4,562,847	19	4,471,020	

会議の開催状況

○荒尾市共同募金委員会運営委員会

会議名	開催日	提出議案
第1回	令和2年7月7日 (書面審議)	議案第1号 荒尾市共同募金委員会副会長の選任について 議案第2号 令和元年度共同募金委員会事業報告及び決算について
第2回	令和3年3月22日	議案第3号 令和3年度共同募金助成金予算案について 議案第4号 令和3年度共同募金委員会事業計画及び事務費予算案について

○荒尾市共同募金委員会審査委員会

会議名	開催日	提出議案
第1回	令和2年11月30日 (書面審議)	議案第1号 令和2年度共同募金助成金変更申請について
第2回	令和3年2月24日	議案第2号 令和3年度共同募金助成金(案)について

(9) 日本赤十字社熊本県支部荒尾市地区事務

本会は、日本赤十字社熊本県支部荒尾市地区の事務局を運営している。

共同募金と同様年々募金額が減少している状況である。

活動資金募集実績(単位:円)

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
活動資金	6,658,318	6,607,467	6,180,600	6,016,318	5,879,093
前年度比	+0.0%	△0.8%	△6.5%	△2.7%	△2.3%

(10) 災害見舞金事業

火災により建物の損害を受けた方に対して見舞金を支給している。

災害見舞金支払件数(単位:件・円)

H28年度		H29年度		H30年度		R元年度		R2年度	
件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
0	0	1	15,000	2	60,000	0	0	6	165,000

(11) 法外援護事業

金銭を失った行旅人に対してJR乗車券を支給している。

行路困難者旅券配布状況

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
件数	10件	6件	4件	3件	6件



## (12) 実習生受入れ

本会において社会福祉士の実習指導者を増やし、他の事業所では新型コロナウイルスの感染拡大防止により実習の受入れに慎重になったため、社会福祉士の養成校から実習の依頼が増加した。

### 実習別受入状況

種 別	H30年度		R元年度		R2年度	
	人数	延人数	人数	延人数	人数	延人数
社会福祉援助技術現場実習	0	0	0	0	4	82
訪問介護員養成研修（実習）	1	5	0	0	0	0
教員免許特例介護等体験実習	1	5	3	15	0	0
高校福祉科実習	2	20	3	15	3	15

## (13) 職場体験事業

本年度は、中学生や高校生からの相談や依頼がなかった。

### 利用状況

受入事業名	H30年度		R元年度		R2年度	
	人数	延人数	人数	延人数	人数	延人数
生活介護事業	0	0	6	14	0	0
障害児通所支援	0	0	0	0	0	0

## (14) 市民病院内売店事業

前年度に続き、新型コロナウイルスの影響を受け来客者数が大幅に減少したことから売店運営に携わる管理課職員3名分の人件費3カ月分が本年度の売り上げから支出することが出来なかった。経営状況の改善が見込めないことから令和3年3月25日で営業終了し、法人本部へ事業廃止による売店拠点の資金残を繰り入れた。

### 営業状況（単位：日・人・千円）

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
営業日数	304	306	307	310	302
来客者数	66,428	65,322	65,477	60,202	41,648
事業収入	45,837	45,371	43,999	39,599	26,839
事業支出	44,368	43,598	43,629	40,613	30,098
法人本部拠点繰入金	1,346	1,600	370	0	1,645



## 【荒尾市潮湯】

### 1. 荒尾市潮湯管理運営

新型コロナウイルス感染拡大防止及び憩いの場設置に伴う工事により、開所日数が例年の3分の2程度となり利用料収入が減少した。毎年実施している敬老週間の無料開放については、憩いの場設置工事による閉館のため実施できなかった。

利用状況（単位：人・日・千円）

		H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
利用者	市内	31,028	25,201	28,327	26,858	16,991
	市外	1,137	1,062	1,411	1,684	1,095
	計	32,165	26,263	29,738	28,542	18,086
うち敬老週間	市内	624	510	480	682	5
	市外	26	14	29	62	0
	計	650	524	509	744	5
開所日数		290	254	288	262	182
利用料収入		3,262	2,679	3,061	3,094	2,109

## 【荒尾市総合福祉センター】

### 1. 荒尾市総合福祉センター管理運営

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、貸館及び本会の事業を中止した時期もあり、前年度に比べ利用は減少した。

利用状況

	H30年度		R元年度		R2年度	
	件数	利用人員	件数	利用人員	件数	利用人員
老人団体関係	0	0	1	6	0	0
身体障がい者関係	0	0	0	0	0	0
市役所	27	567	34	686	20	385
民生委員	65	728	62	627	32	366
遺族会	0	0	0	0	0	0
保護司会	10	192	8	135	7	102
社協	123	1,310	165	2,051	169	1,955
児童関係	0	0	0	0	0	0
その他	13	224	13	156	9	79
計	238	3,021	283	3,661	237	2,887